

問1 室町時代から江戸時代にかけての社会や文化の動きについて、歴史的な背景や因果関係を正しく説明しているものはどれですか。（2015年 山口公立入試 類似）

- 15世紀後半の東山文化で銀閣が建てられたのち、16世紀には石見銀山などで精錬技術が向上して銀の増産が進み、世界的な銀の供給源となった。
- 奈良時代に唐招提寺を建立した鑑真が銀の採掘技術を伝えたため、鎌倉時代の東大寺再建の費用はすべて銀の輸出による利益で賄われた。
- 江戸時代に日光東照宮が造営された背景には、16世紀の銀鉱山開発による利益を独占し続けていた室町幕府の足利将軍家による経済的支援があった。
- 源頼朝が東大寺を再建させたことで銀の価値が国際的に高まり、その資金を活用した足利義政が室町時代に銀閣を建立した。

問2 紀元前2500年ごろからインダス川流域で栄えた古代文明では、石で作られた四角い印章に動物の図像とともに独自の文字が刻まれていました。この文字に関する説明として、他の文明の文字と比較した際の特徴を次の中から選びなさい。（2025年 愛知公立入試 類似）

- エジプトの象形文字やメソポタミアのくさび形文字とは異なり、現在も解読されていない。
- 亀の甲羅や動物の骨に刻まれた文字であり、現在の漢字の原型となった。
- フェニキア人によって考案され、後のアルファベットの起源となった。
- 粘土板に刻まれることで記録が残り、現在ではその内容の多くが解明されている。

問3 古代のエジプト文明、メソポタミア文明、インダス文明、中国文明の四つの文明について、その成立に共通する地理的条件を説明したものととして最も適切なものはどれですか。（2022年 和歌山公立入試 類似）

- 農耕に適した肥沃な土地が得られる大河の流域で成立した
- 季節風の影響を強く受ける東アジアの沿岸部でのみ成立した
- イスラム教の教えを共通の精神的基盤として砂漠地帯で発展した
- 天体観測に基づき、すべての文明が太陽暦を主な暦として使用した

問4 イタリア半島中部に位置する都市国家から発展し、紀元前6世紀末に貴族を中心とした「共和制」が成立した後、紀元前1世紀には地中海の全域を統一する巨大な帝国へと成長した国家の名前を答えなさい。（2025年 和歌山公立入試 類似）

- ローマ
- アテネ
- 長安
- バビロン

問5 南アメリカのアンデス山脈の急斜面に位置し、15世紀頃にインカ帝国によって築かれた、精緻な石積みの遺構が特徴的な世界遺産の名称として正しいものを選択してください。（2015年 千葉県公立入試 類似）

- マチュピチュ
- コロッセオ
- モヘンジョ・ダロ
- アンコール・ワット

問6 世界の四大文明は、アフリカのナイル川、南アジアのインダス川、東アジアの黄河や長江といった大河の流域で成立しました。これらの文明が大河の周辺で発展した理由について、当時の社会の仕組みの観点から説明したものととして最も適切なものはどれですか。（2018年 高知公立入試 類似）

- 大規模な灌漑や治水工事を行うために、人々を効率よく組織し、まとめ上げる強力な指導者が現れて国家が形成されたから。
- 大河は他民族の侵入を完全に防ぐ天然の壁となり、軍隊を持つ必要がなくなったことで文化の研究に専念できたから。
- 河川の急流を利用した水車によってエネルギーを確保し、それを用いて青銅器や鉄器を大量生産する工業化に成功したから。
- 大河の周辺には、ピラミッドや巨大な城壁などの石造建築物を作るために必要な良質の石材が、世界で唯一豊富に存在したから。

問7 紀元前3000年ごろ、西アジアのチグリス川とユーフラテス川の流域で栄えた文明は、肥沃な土地を利用して灌漑農業が行われ、粘土板に刻まれる楔形文字などの独自の文化を生み出しました。この文明の名称として正しいものを選択してください。（2018年 高知公立入試 類似）

- メソポタミア文明
- エジプト文明
- インダス文明
- 中国文明

問8 7世紀にアラビア半島のムハンマドが、唯一の神であるアッラーからの啓示を受けたとして開いた、神への絶対的な服従を説く宗教は何か、次の中から選びなさい。（2025年 千葉公立入試 類似）

- イスラム教
- キリスト教
- 仏教
- 儒教

答え合わせ・解説

問1	答え 1 15世紀後半の東山文化で銀閣が建てられたのち、16世紀には石見銀山などで精錬技術が向上して銀の増産が進み、世界的な銀の供給源となった。	15世紀、足利義政が東山山荘に銀閣を建立した時期は室町時代の中期にあたります。その後、16世紀に入ると灰吹法などの新しい技術が導入され、石見銀山を中心に銀の生産量が急増しました。この銀は戦国大名やその後の江戸幕府の重要な財源となり、南蛮貿易や中国（明・清）との貿易における主要な決済手段として、世界の経済に大きな影響を与えました。日光東照宮の造営は、江戸幕府がこの強大な経済基盤を確立した後の出来事です。
問2	答え 1 エジプトの象形文字やメソポタミアのくさび形文字とは異なり、現在も解読されていない。	インダス川流域で栄えたインダス文明では、独自のインダス文字が使用されていました。この文字は印章などに刻まれて発見されていますが、ロゼッタ・ストーンのような解読の鍵となる資料が見つかっていないため、現在も解読には至っていません。これに対し、メソポタミア文明のくさび形文字や中国の甲骨文字（漢字の原型）などは解読が進んでいます。
問3	答え 1 農耕に適した肥沃な土地が得られる大河の流域で成立した	四大文明はいずれも、ナイル川、チグリス・ユーフラテス川、インダス川、黄河・長江といった大河の周辺で誕生しました。これらの地域では、河川の氾濫によって運ばれる肥沃な土壌を利用して大規模な農耕が可能になり、食料生産が安定したことで人口が増え、国家や文明が形成されました。東アジアに限られた特徴ではなく、イスラム教の成立は文明誕生よりはるか後の時代のことです。
問4	答え 1 ローマ	イタリア半島中部の小さな都市国家から始まったこの国家は、王政を廃止して貴族による共和制を確立しました。その後、平民の権利拡大や周辺地域への征服活動を通じて勢力を広げ、最終的には地中海を「われらが海」と呼ぶほどの広大な帝国を築き上げました。ギリシャのアテネと異なり、広大な領土を統治するための法整備や土木技術が発達した点も特徴です。
問5	答え 1 マチュピチュ	マチュピチュは、現在のペルーにあるインカ帝国の遺跡です。標高約2400メートルの尾根に位置しており、鉄製の道具を持たなかったにもかかわらず、巨大な石を隙間なく組み合わせる高度な石造建築技術が用いられています。その立地から「空中都市」とも呼ばれ、世界文化遺産に登録されています。
問6	答え 1 大規模な灌漑や治水工事を行うために、人々を効率よく組織し、まとめ上げる強力な指導者が現れて国家が形成されたから。	大河の流域で農業生産を安定させるためには、洪水を防ぐ治水や、田畑に水を引く灌漑といった大規模な土木作業が不可欠でした。これらの作業を統率する過程で、強力な権力を持つ王や指導者が現れ、階級や税の仕組み、文字による記録体系を持つ「国家」という組織が整えられていきました。
問7	答え 1 メソポタミア文明	チグリス川とユーフラテス川の二つの河川の間に位置する地域では、定期的な増水によって運ばれる肥沃な土壌を利用した農業が発展しました。この地域では楔形文字のほかに、太陰暦や六十進法が考案され、その後の文明に大きな影響を与えました。
問8	答え 1 イスラム教	ムハンマドがメッカで開いたこの宗教は、唯一神アッラーを信仰し、その教えは聖典「コーラン」にまとめられています。ムスリムと呼ばれる信者は、礼拝や断食など、生活全般において神への服従を実践することを重んじます。